

日本教育社会学会第27回大会
(関西学院大学)
Ⅲ-6部会 家族と教育 (1)

母親の働き方が子どもの進路意識に与える影
響とコロナ禍におけるその変化(2)

○西本裕輝 (琉球大学)

○馬居政幸 (静岡大学 (名) ・ 静岡県
立大学 (非))

望月重信 (明治学院大学 (名))

2021.9.11

はじめに

- 本研究は2018年、沖縄県X市において主に中高生とその保護者を対象として実施した質問紙調査により得られたデータの分析に基づき、母親の働き方（雇用形態等）が子どもの学力や進路意識等にどのように影響しているかを明らかにするとともに、コロナ禍によってそれがどう変化するかについて考察を加えることを目的とする。

はじめに

- 現在コロナ禍により学校は大きく変化
- 4月から一人一台タブレットが支給
- デジタル化、ギガスクール化が本格化
→授業のあり方
- 特に母親の関わり方がこれまで以上に重要
→Wi-Fi 環境、宿題、目的外使用の監視

はじめに

- 母親の働き方
→子どもに関わる時間
- 「専業主婦」
- コロナ禍と急激なデジタル化もあって今後はより一層進行する可能性
- 「専業主婦」が子どもの学力達成にとって有利であるという結果が出るとすれば危険な状況を示す
- 過度に母親に依存する教育体制は負担が大きい

はじめに

- そうした条件を整えることができるのはごく少数(16.6%)
- 母親の働き方が子どもの学力や進路意識等にどのように影響しているのか？
- コロナ禍によりどう変化しうるのか？
- 前半：西本、後半：馬居

1. 調査の概要

調査の概要

- 調査地域：沖縄県X市
- 調査時期：2018 年9月～11 月
- 調査の種類：6種類
- ①「乳幼児の保護者調査」(有効回答1593 名
回収率44.6%)、
- ②「小学生の保護者調査」(有効回答845 名、
回収率33.8%)

調査の概要

- ③「中学生調査」(有効回答459 名、回収率20.2%)
- ④「中学生の保護者調査」(有効回答459 名、回収率20.2%)
- ⑤「中学校卒業者調査」(有効回答737名、回収率20.6%)
- ⑥「中学校卒業者の保護者調査」(有効回答737 名、回収率20.6%)
- 回答者が母親である場合を分析対象

2. 分析結果

(1) 母親の職業形態

- 1. 正規の職員や従業員
- 2. パート、アルバイト
- 3. 契約社員、臨時社員、準社員、非常勤職員など
- 4. 派遣社員
- 5. 自営業主(個人経営の商店・工場・農業など)
- 6. 会社や団体等の役員
- 7. 家族従業者(商店・工場・農業など家族経営の仕事を手伝っている者)
- 8. 家庭での内職など
- 9. その他()
- 10. 現在、仕事をしていない

(1) 母親の職業形態

- 便宜上「正規」「非正規」「無職」「専業主婦」の4分類
- 「正規」・・・1.5.6.
- 「非正規」・・・2.3.4.7.8.
- 「無職」・・・10.
- 9.・・・欠損値
- さらに「無職」のうち、夫が働いている者をいわゆる「専業主婦」と特定

※母親 & 無職 & 夫が就労＝専業主婦（操作上の定義）

■ 正規 ■ 非正規 ■ 無職 ■ 専業主婦

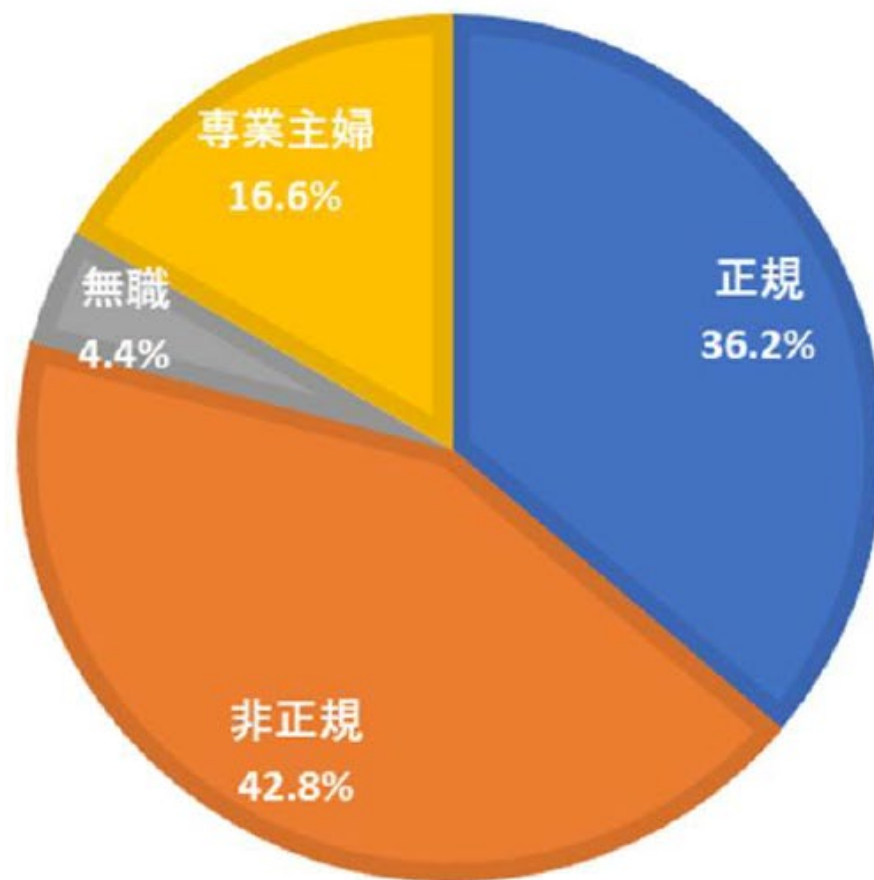


図 1) 母親の雇用形態の分布

(2) 母親の職業形態と世帯収入

- 中学生データ(③④)、高校生データ(⑤⑥)に基づき、母親の職業形態別に学力等について比較
- 母親の雇用形態別に見た世帯収入の比較(図2)
- 専業主婦はある程度の経済的余裕のもとに成り立っている
- 分散分析の結果、1%水準で有意

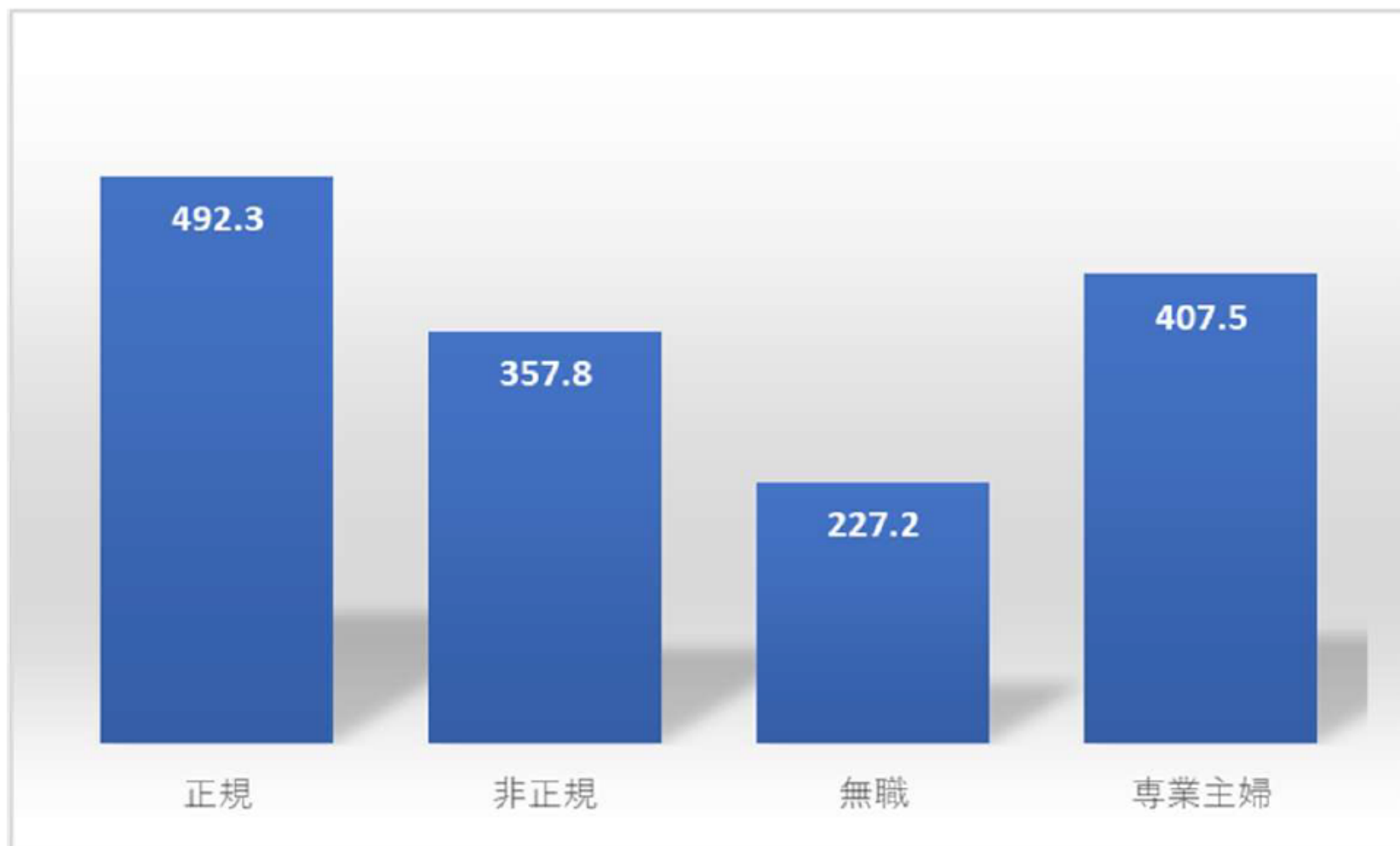


図 2) 母親の雇用形態別の世帯収入 (単位 : 万円)

(3) 母親の職業形態と学力

- 中学生のみのデータで分析
- 10%水準で有意
- 専業主婦群がもっとも高く、3.4
- 次に高いのが正規職(3.2)であり、非正規(3.0)、無職(2.9)と続いている。

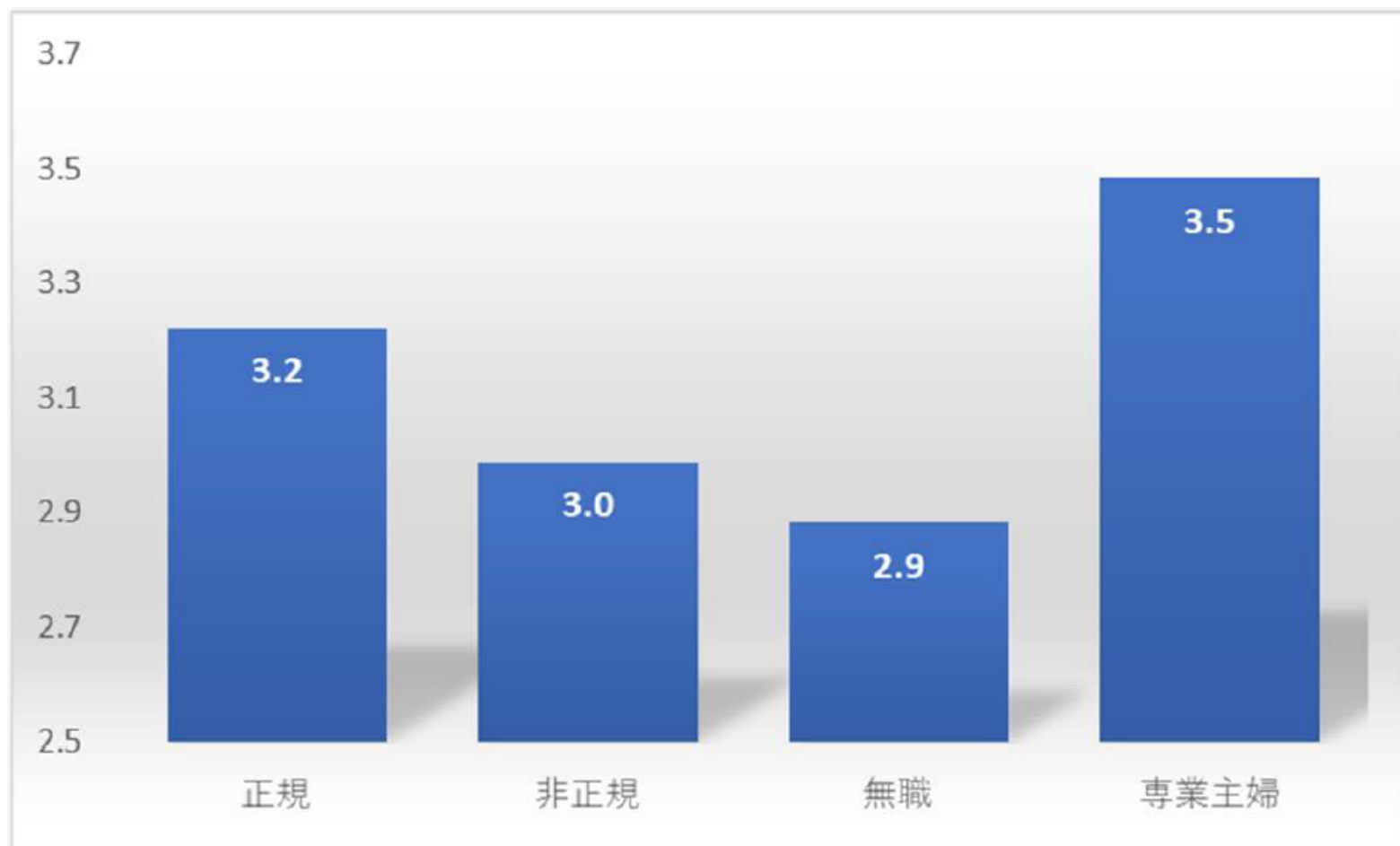


図3) 母親の雇用形態別の子どもの成績（中学生：5段階評価）

(4) 母親の職業形態と子どもの進路意識

- 教育年数の平均値を比較(図4)
- 1%水準で有意
- 例えば中卒だと9(小学校6年+中学校3年)
- 正規職の教育年数がもっとも長く(14.8年)、次いで専業主婦の14.6年が続く
- 専業主婦の子どもの進路意識は正規職ほどではないが、ある程度高い

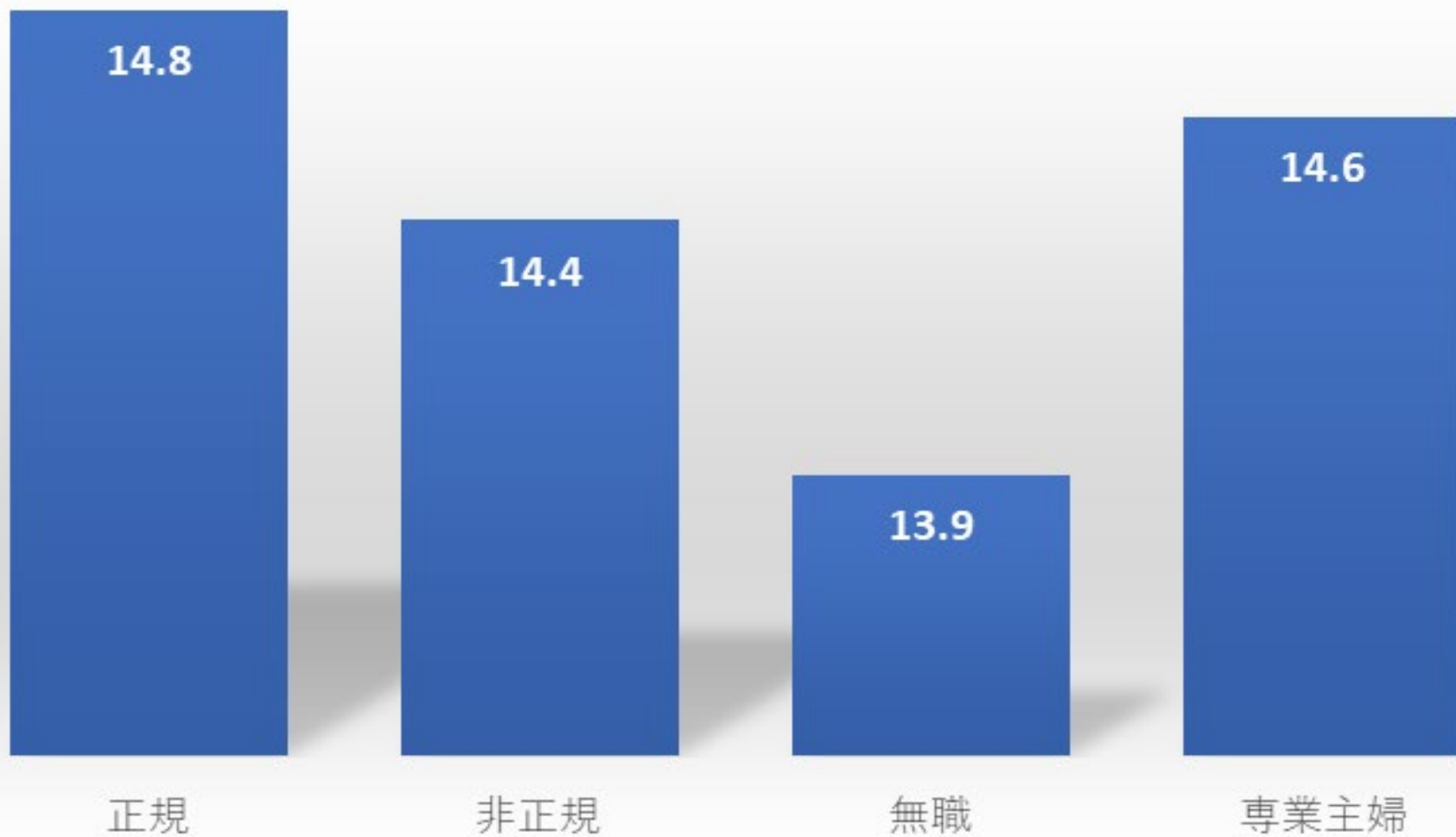


図4) 母親の雇用形態別の子どもの進路意識(教育年数)

(5) 父母の職業形態別に見た世帯収入

- 父母の職業形態の組み合わせ別に見た世帯収入(表1)
- 1%水準で有意
- 「父正規・母正規」がもっとも収入が高い
- 「父正規・母無職」=「専業主婦」は4位
- 「専業主婦」はある程度の経済的余裕のもとに成り立っている

表 1) 父母の職業形態別に見た世帯収入

	度数	世帯収入の平均値 (万円)	有効%	累積%
父正規・母正規	787	546.1	27.1	27.1
父非正規・母正規	86	438.4	3.0	30.1
父正規・母非正規	880	411.3	30.7	60.8
父正規・母無職 (専業主婦)	474	407.5	16.7	77.4
父無職・母正規	20	385.3	0.7	78.1
父非正規・母非正規	116	289.6	4.1	82.2
父無職・母無職	11	283.2	0.4	82.6
独身・母正規	164	275.6	5.4	88.1
父非正規・母無職	62	246.9	2.3	90.4
独身・母非正規	226	194.5	7.6	98.0
独身・母無職	47	188.1	1.6	99.6
父無職・母非正規	11	177.7	0.4	100.0
合計	2884	409.9	100.0	100.0

おわりに

- 子どもの学力向上、進路意識の向上にとっては母親が「専業主婦」であることが有利
- 「専業主婦」にはある程度の経済的余裕が必要
- 以上の条件を満たせる家庭は少数(16%程度)
- 母親への依存を前提とした学校教育におけるオンライン化は非常に危険？